

ポリナビワークショップ

ポリナビワークショップに参加し、医療現場を支えるうえでの政治の重要性について深く考える機会となりました。特に、人手不足が続く中での処遇改善や、20年間ほぼ変わらない夜勤手当の問題について学び、責任や負担に見合った評価の必要性を強く感じました。また、子育て支援による時短勤務や夜勤免除が進む一方で、周囲の職員へ負担が偏る現状にも触れられ、支える側への配慮や負担軽減も同時に進める重要性に共感しました。ただ現状に悩むだけでなく、現場で働く私たちが当事者として課題に目を向け、声を社会や政治に届けていくことが、これからの医療環境を変える確かな一歩になると実感することができました。

獨協医科大学日光医療センター 大橋 琉生



栃木県看護連盟通常総会報告



日 時：2026年6月15日（月）
10：30～12：00
場 所：コンセーレ大ホール
出席者：役員7名 出席者118名
委任状：5,851名
合 計：5,976名
※ 6/10 会員数 6,285名

2026年度 事業計画

- I. 見える活動
- II. 行動する会員
- III. 確かな組織づくり

栃木県看護連盟通常総会に参加して

2026年は看護連盟組織の第2の変革の年として、「看護連盟のパーパス（存在意義）の策定」が重要課題と位置づけられています。現場の声を拾い上げ、これからの看護の現場を担う方々が、安心と誇りを持って働き続けられるように、組織が一丸となって取り組むことが重要であると感じました。スローガンである「届けよう看護に声を！私たちの未来へ」が実現するよう団結が必要であると感じました。

那須赤十字病院 菅野 麗美

